大阪市立大学

大学教育だより

RDHE 2014.3 No.11
Center for Research and Development of Higher Education

ロゴデザイン：吉谷ひかり

大阪市立大学
大学教育研究センター
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
（全学共通教育棟5階）
http://www.rdhe.osaka-cu.ac.jp/

大学教育だより No.11

Voice～学生の声 ● 経済学部学生・医学部看護学科学生ミニ交換留学と座談会
Campus Inquiry ● ウチの学部・研究科・センターではこんな教育を行っています！ 都市健康・スポーツ研究センター／英語教育開発センター／商学部・経営学研究科
OCU Education News ● 市大教育ニュース！ 「地域実践演習（GATSUN）」／短期英語語学研修のお知らせ
Center Now & Human ● 大学教育研究センターの活動・研究・スタッフ紹介

アン ロゾ（Un roseau）No.15：縦書き部分

● 桐山 孝信 先生（副学長） ● 飯尾 英夫 先生（理学研究科・理学部）

Voice ～学生の声

経済学部学生・医学部看護学科学生ミニ交換留学と座談会

経済学部と医学部看護学科座談会は、2013年7月19日（金）に開催されました。文系と医療系という、異なる学部の学生の学習の様子を相互に知り、本学での学びを振り返ることにしました。

座談会に先立ち、経済学部の2回生向けの科目「イノベーティブ・ワークショップ」（瀬戸口先生担当）を公開していただき、4限に杉本町で「幹細胞」について、5限には阿倍野に移動して「抗うつ薬」について、それぞれ2チームでディベートしました。5限からは看護学科学生も参加してジャッジしたり感想を述べ合ったりしました。そして、看護学科2回生の案内による看護学舎見学を行った後、座談会となりました。

参加学生は、経済学部より11名、看護学科より4名でした。参加教員は、経済学研究科より非常勤講師瀬戸口明久先生と大学教育研究センター兼任研究員でもある中島義裕先生、北原稔先生、看護学研究科より大学教育研究センター兼任研究員廣田麻子先生、大学教育研究センターより飯吉弘子先生でした。

【廣田】今日はざっくばらんに色々とお話しいただけたらと思います。

【廣田】看護と経済と両方をご経験されている学生さんが参加されていると伺いましたが、看護学科の学舎に来てみていかがでしょうか。

【経済】建物にまず、すごい格差がありますよね。経済学部の学舎はすごい古いです。暑いと先生はドアを少し開けて、ごみ箱を挟んで風を通したりとか、何かちょっとかわいそうな所があったりします。（笑）大学病院という大きいものを持っているからきっとお金

経済学部学生・医学部看護学科学生ミニ交換留学と座談会

が集中するんですよね、その恩恵にあずかって看護学科もとてもいい施設を持っているんだろうな。一方、経済学の有用性は中々わかってもらえない。私は今世界の流れを、内側からと外側から、ミクロとマクロとを見て勉強しているのですが、「一体何やってるんだろう」というのはあると思うんです。

一度過ぎてからもう一回見直すと得られるものもあると思うので、自分の道がわからなくなったら、全然違う所に行ってみるのも、楽しいと思いますよ。私は、今までいた所が、救急だとか、ICUだとか、透析だとか、リハビリだとか、何かばらばら色んな所を見てきているから、自分の中でも整理し切れてない世界が沢山あります。そういった色んな経験を皆に説明することがうまくできない。それを経済学という皆の共通の言葉を使って説明ができたら楽しいな、という風に思いました。

◇

【廣田】看護学科の学生さんが、経済の授業を見せていただいて、感想とか初めて経験したこととかお話し下さい。
【看護】勉強不足が露呈したと思った。
【看護】専門用語が一杯出てきたけど、半分以上理解できなかった。

【看護】看護にグループワークはあるけど、議論みたいなことはしないので、それはすごい新鮮だなと思いました。看護は議論に弱い子が多い、どっちかといえば、できない。
【看護】そう、今はただただ覚えるばかりで、何か発信しなさいと言われても、できないと感じたな。
【瀬戸口】経済学部では、余りディベートの授業ってないと思うんですけど、どうでしたか。
【看護】経済っぽくないって思う。簿記のイメージがある。
【経済】簿記は商学部。
【看護】あ、あれは商学部か。
【経済】商学部と経済学部が頭の中でごっちゃになっているとか。
【看護】一緒。
【経済】俺なんかもわからんものね。
【経済】商学部は、経営とかじゃないですか。
【経済】商学部はお金で、経済学部は政策。
【経済】商学部はどうやったら利益が上がるかというのをやっていて、経済学部はどうやったらお金の回りがうまくいくかをしているという感じはあります。
【北原】経済学部の方から、今日の実習室とか見て、何か感想とか聞きたいことはありますか。
【経済】看護学科を卒業したら、全員看護師になるんですか。
【看護】いや、そういうわけではなくて、看護師になる人もいれば、保健師になって保健所に勤める人もいれば、保健の先生になる人もいます。
【看護】アルバイトで学校の遠足について行ったりとか。
【看護】マラソン大会の救護係をするとか。
【看護】企業、会社の保健室に勤めたりとか。
【看護】ジャンルは結構いい。

◇

【廣田】経済の学生さんに聞きたいことはないですか。
【看護】経済って、何を勉強するのですか。授業は、いつもあんな感じかなと思ったら、そういうわけではないみたいなので。
【経済】教科書は軽いけど、難しいさかい、めっちゃ……
【経済】私は国際経済学です。
【飯吉】国際経済学って、どういうことをするのですか。カリキュラムは？
【経済】俺、テストできんからわからんけど、計算やな、経済学。
【経済】必修は余りなくて、選択必修みたいにこの中から何個は取って下さいとなっているから、皆が皆取っている授業というのは少ないです。
【看護】経済って全員で何人いるんですか、1学年。
【経済】220人とかじゃないかな。
【看護】その人数で全員のイベントとかってあるんですか。
【経済】ないですね。

【看護】看護学科は、1学年1クラスという感じですね。
【看護】そうそうそう。高校のクラスを想像してもらった方が近いかも、看護学科というのは。
【看護】4年間一緒で。

◇

【看護】経済学部を卒業したら、皆、何になるんですか。
【経済】色々だと思う。
【経済】銀行。
【経済】サラリーマン。
【経済】公務員とか。
【経済】公務員の試験では、法律のことが入ってきて、それと後、ミクマク、うちの専門のミクロ経済、マクロ経済と、あと一般教養が入ってくるから……
【経済】僕は教師です。社会、日本史やろうかなと思っているので、今、教職取ってます。
【廣田】日本史の先生というと、何か文学部のイメージですが。

【経済】ああ、でも経済でもできるみたいです。一応文学部の授業を受けるわけです。文学部の科目も履修する必要があるんですね。
【看護】ミクロ経済とマクロ経済と、何が違うんですか。大きいか小さいかみたいな？
【経済】ミクロは小さい話をして、マクロは大きい話をする。
【経済】なぜ看護学科を選んだのですか？
【看護】何か先にやりたいこと決めようと思って、思いついたのが看護師だったので、看護師やったら国家資格やし、収入もあるし……
【看護】将来明るいんだよね。
【看護】何で経済学部にしたんですか？
【経済】高校の時結構好きな本があって、社会政策的な感じの本とか歴史の本とか、共産主義と社会主義と資本主義の本とかを結構読んでいて、それで興味持って入りました。
【教員】実際入ってみて、どうでした？
【経済】数式とか色々使うから、言葉だけじゃないから、まあ使えるかなと。

◇

【廣田】最初に発言した学生さんも看護師やっていて現在経済学部在籍ですし、瀬戸口先生ご自身も、理学部ご出身で今は経済だと伺いました。そういう人が多いのでしょうか、経済学部には。

【瀬戸口】私は、経済学部で勉強したことは一度もなくて、専門は科学技術論で、理学部と文学部を出ています。それから、中島先生は理学博士ですよ。産業組織論を教えておられる北原先生だけが、純粋に経済学者です。
【中島】純粋に経済学博士という先生は割と少ないですね。
【瀬戸口】多分これは看護と大分違う所でしょう。看護は資格持っている人が多くて、廣田先生みたいに英語がご専門というのはむしろ例外です。経済では経済学博士のほうが少ない、少ないということじゃないけど、半分位ですかね。
【中島】半分位に見えてしまいますね。多分そんなことはないんだと思いますけど。
【瀬戸口】私を含めて文学博士が3人位でした。経済は、誰でも色んなことを勉強できる、色んなものと出会える所だと思います。

◇

（後半も、授業の取り方、新歓の有無、サークルの選択肢など、話が弾む。）

◇

【飯吉】今日の全体を通して、感想を一言ずつ。
【瀬戸口】ぜひとも何か、同じ大学生としてどうなんだという所が聞きたいです。高校の時に、文系、理系の選択とかがあって、学部の選択があって、同じ大学生だけど全然違う生活を送ってる気がしない？
【看護】私らの口癖は、他の学部に行ってたらどういう人生を送ってただろうと。
【看護】この学部じゃなかったら、もっと遊べたのにとか。
【看護】もっとバイトできたのにとか。
【看護】だから、杉本町で勉強している人がうらやましい。
【看護】ずっと大学っぽい所で勉強できて。他の学部の人と会う機会があるというだけでうらやましいです。
【飯吉】キャンパスも違うと交流も少ないですね。
【看護】授業の形から違うから。私らは、ばらばらに授業を受けるということではなくて、皆で一緒に授業を受ける。
【看護】高校生の延長線上みたいな形です。
【看護】いかに技術を身につけるかというのが大事。
【看護】ゼミは、看護にはないから、大学生ぽくてうらやましいなと思いますね。
【飯吉】経済の人達はいかがですか。
【経済】看護は皆、同じカリキュラムをやっていくという感じやから、しっかりしている所が一番違う気がして、皆、はきはきしゃべるなと。逆に僕らは、授業も全部自己責任の感じで取って、自由さがあって、そこら辺はいい所だって思いました。
【経済】経済は、授業に余り義務感がなく自由なんですけど、その分、友達との間の統一感が少ないかなと。看護の仲よしがちょっとうらやましい。

【経済】学部棟を紹介してもらって、少なくとも僕が経済学部棟を紹介してくれとか、授業のことを説明してくれと言われたら、多分できない。
【経済】将来に対するビジョンとかできているのがすごいと思った。僕達1年生の時から、クラスの授業とか全然ないので、皆で受けるみたいなのはちょっといいなと思いました。
【経済】皆将来のこと考えていてすごいなと思う。僕は今考えているのは4年で卒業できることだから。
【経済】経済だと、先生の話を聞いてノートを取ってと、机の上に座ってずうっとカリカリやっているという感じやけど、看護はもっと実践的で、将来につながる感じがして、それが同じ学年やけど上のほうに見える感じがした。
【経済】経済は自分で自由に授業を選べる。しっかりしてる人はそれでいいけど、しっかりしてない私みたいな人は、縛られてないとどんどん堕落していく一方。だから、ああ、こっちにいちゃいけない人だったかなと思ったり。あと、看護の人たちは、明確に将来のことをイメージできていて、そういう話ができるというのはうらやましいなと思いました。

［インタビューを終えて］

── ゼミに所属する3回生以降と比べると知る機会が限られがちな入ゼミ前の、それも2回生前期末と、学部生としての時間もそれなりに経た所での学生さん達の言葉を聞くことができ、教員としても有用であったように思います。学生さん達にも、それなりに経験も積み、さて大学生活後半に向け方向性を定めて行こうと言う所、高校まではほぼ同じながらその後異なる環境で1年余りを送って来た同年代とのやり取りは、現時点での立ち位置を捉えるのによい機会になったのではと期待します。なお、何人かの学生さん達の間ではその後も交流が続いているようです。ともあれ企画成功は、学生さん達の積極性の賜物であり、感謝したいと思います。

（経済学研究科　北原稔先生）

── 厳格に固定したカリキュラムで学ぶ看護学生と、自由度の高い幅広いカリキュラムで学ぶ経済学生との対比が明らかになりました。明確な目標に向かって努力する看護学生と、柔軟に色んなものと出会いながら自分の進路を見きわめていく経済学生とでも言いましょうか。すこし色合いは違いますが、どちらも未来ある大阪市立大学の学生同士、心を通わすものがあったと思います。　（看護学研究科　廣田麻子先生）

文責：大学教育研究センター兼任研究員
経済学研究科准教授　北原　稔
看護学研究科講師　廣田　麻子

Campus Inquiry

ウチの学部・研究科ではこんな教育を行っています！

都市健康・スポーツ研究センター

現在～未来のための「健康・スポーツ」教育

都市健康・スポーツ研究センターでは、学生が生涯にわたって健康的で活動的なライフスタイルを形成し、豊かな社会生活を実現できる素養を育成することを教育目標とし、全学共通科目の授業として「健康・スポーツ科学科目」を開講するとともに、様々な教育・FD活動を展開しています。ここでは、その一端を紹介します。

健康・スポーツ科学科目 ～健康・スポーツの理論と実践法の習得～

健康・スポーツ科学科目は、健康・スポーツに関する科学的知識と理論を習得する「健康・スポーツ科学講義」と、理論に基づく実践法を習得すると共に講義内容の理解を深める「健康・スポーツ科学実習」から構成されています。

健康・スポーツ科学講義は、「健康運動科学」「体力トレーニング科学」「スポーツ実践科学」の3領域で構成されています。多岐にわたる健康・スポーツに関する科学的知識・理論の中で、それぞれ、生涯にわたる健康・スポーツの実践へと繋がる内容を掘り下げ、概論から専門的で高度な内容や最新のスポーツ科学に至る内容の講義を展開しています。

健康・スポーツ科学実習は、「実験実習」と「スポーツ実習」で構成されています。実験実習は、講義の3領域に対応して開講しており、身体諸機能、体力、あるいは、実際に運動を行った時の生体応答などを実験装置によって測定し、さらに、それらのデータを客観的に解析・評価し、グループディスカッションを行うことによって、講義内容の理解を深めることを目的としています。

スポーツ実習では、現在、12種目を開講しています。平成23年度からは「ハンドボール」を、平成24年度からは「ダンス」を新たに種目に加えてきました。スポーツを学ぶのではなく、スポーツで学ぶこと、つまり、様々な特性を持った各種スポーツ種目を教材とし、講義で習得した知識・理論に基づく実践法を習得すること、また、スポーツの楽しさ、楽しみ方を学ぶだけでなく、スポーツ実践を通してコミュニケーションスキル、自己表現力、協調性などを養成することを目的として授業を展開しています。また、障がいのある学生や、様々な事由によってスポーツ種目の実施が困難な学生に対しては、各自の体力と目的に応じて運動・スポーツを継続して実施するための方法を習得する「健康管理」も開講しています。このように、学生の健康・スポーツに関する多様なニーズに応えるカリキュラムを構成しています。

教育における資質の向上や授業のさらなる改善に向け、健康・スポーツ科学科目の担当者全員が参加する意見交換会を開催し、教員相互の活発な意見・情報交換を実施しています。また、スポーツ実習の履修者全員（半期）を対象に実施している授業評価アンケートの結果を分析しながら、カリキュラムの工夫を重ねています。

たばこと健康問題 ～「喫煙を始めない」ことの大切さを学ぶ～

喫煙は生活習慣病やその他の様々な疾患の発症に深く関わっており、生涯にわたって健康的なライフスタイルを形成するためは、「喫煙を始めない」ことは重要です。我々は、平成24～25年度にかけて、健康・スポーツ科学科目の講義として「たばこと健康問題」を開講してきました。この講義は、学外者からの寄付（はばたけ夢基金）により開講が実現しました。喫煙行為やたばこ産業の歴史、身体・精神の健康に及ぼすたばこの影響、さらに、受動喫煙防止のための公的な取り組みなどについて、医学的観点からのみならず、法学、経済学、薬学など、さまざまな角度から「たばこ」を紐解き、認識を深めるオムニバス形式で構成されています。各回の講師にはそれぞれの分野で全国的に活躍中の専門家を招き、たばこに関する広範な知識を習得し、「たばこと健康問題」を考察する、他大学では類を見ない取り組みです。学生の喫煙・防煙に対する意識向上と学内の喫煙状況の改善に一定の効果を上げてきました。

サロン ド スポルト トップアスリートのまなざし

種々の競技スポーツで活躍するトップアスリートやその周辺の人々を講師に招き、学生に対して講演会を不定期に開催しています。平成24年には、元テニストッププレーヤーの不田涼子さんを講師に招いて開催しました。トップに上り詰めたアスリートが何を考え、どのように競技スポーツに取り組んできたのか？ その一端を知り、学生が豊かな社会生活を実現する上で参考となることを期待しています。また、「する」だけでなく、「みる」というスポーツの側面を学ぶ、授業だけでは得ることができない、都市健康・スポーツ研究センターならではの活動です。

現在～未来のための「健康・スポーツ」教育

2020年に東京オリンピックの開催が決定しました。開催に合わせ、国民総健康・スポーツに向けた取り組みも始まってきています。一方で、我々の社会では、これまでに他国が経験したことのない猛烈な勢いで人口高齢化が進行しており、2060年には高齢化率が40%に至ると予想（高齢社会白書2013、内閣府）されています。現在の大学生が65歳以上の高齢者となる時に、2.5人に1人は高齢者となる計算です。このような社会状況の中で、今後、様々な分野で活躍を期待される学生諸君には、健康・スポーツの理論に基づく実践を通して、健康的で活動的なライフスタイルを形成し自らの健康を維持・増進するだけでなく、未来の「健康な社会」の実現に向けてその一翼を担って欲しい。そんなことを期待し、我々は日々教育に取り組んでいます。

大学教育研究センター兼任研究員
都市健康・スポーツ研究センター准教授　岡崎　和伸

学部研究科 教育・FD 紹介

Campus Inquiry

ウチの学部・研究科ではこんな教育を行っています！

英語教育開発センター

「生きたことばとしての英語」の習得―CEと課外学習

全学共通教育における英語教育

英語教育開発センターは、全学共通教育における英語教育を統括しています。本学の全学共通教育における英語教育は、学生に「生きたことばとしての英語」を習得させることを目標としています。「生きたことばとしての英語」とは、自らの考えを相手にきちんと理解できる形で表現し、かつ相手の意図を正しく理解するために用いられることばを指します。英語教育開発センターは、学生に「生きたことばとしての英語」を運用する力を身につけさせるために、全学共通教育の外国語科目としてCollege English（CE）を提供しています。また、こうした英語運用能力を習得するには、授業だけではなく、課外でも学習することが望ましいと思われます。英語教育開発センターでは、そうした課外での学習の場も提供しています。

ここからは、英語教育開発センターがどのような課外での学習の場を提供しているのかを紹介していきたいと思います。

課外での学習の場

すでに述べたように、「生きたことばとしての英語」を運用する能力を手に入れるためには、授業だけではなく、課外で学習することも望ましいことです。ですので、英語教育開発センターでは、さまざまな課外での学習の場を提供しています。

① 短期語学研修

まず一つ目は、毎年三月に実施されるビクトリア大学短期語学研修です。この研修は、カナダのブリティッシュ・コロンビア州にあるビクトリア大学で実施されるもので、研修の参加者たちは、一ヶ月弱、ホームステイしながら大学に通い、朝から晩まで英語を使い続ける生活を送ります。午前中は授業を受け（もちろん授業は英語で行われます）、午後はさまざまなアクティビティを通して、町の人々と（もちろん英語で）触れ合ったりします。夜と休日はホスト・ファミリーたちと過ごします。

言うまでもないことですが、一ヶ月弱、外国に滞在しただけで、英語運用能力が劇的に向上するようなことはまずありません。この研修が目指すのは、英語漬けの生活を送ることにより、授業を受けたり、店で買い物をしたり、実際に英語を使って生活するということがどういうことなのかを肌で理解させ、その理解を通して、英語を使うことへの抵抗感を減らし、英語学習に対する意欲を高めさせることにあります。英語を身につけるために不可欠な日々の地道な学習は、こうした自発的な意欲なくして継続させることはできません。これまでの参加者に話を聞いてみても、研修に参加したあとは、英語を読んだり話したりすることへの抵抗が少なくなり、英語学習への意欲が高まったと言っています。また、短期間の滞在ではあれ異国の地で生活したことにより、異文化交流への興味も高まります。留学生と交流するサークルを作った学生もいます。

この研修は平成20年度から始まり、これまでに150人近くの学生が研修に参加しました。これからも研修を継続し、多くの学生に海外での生活を体験してもらいたいと思っています。

② English Café

課外学習の場を設ける別の取り組みとしては、English Caféの運営があります。English Caféは全学共通教育棟5階（英語教育開発センターの隣り）にあります。Caféには英字の新聞や雑誌が置かれており、自由に読むことができますし、DVDプレーヤもあるので、DVDを見ることもできます。またCaféでは（年度によって変わりますが）週に2回から3回、Office Hourというものが開催されています。この時間帯には、英語を母語とする教員が待機しており、好きなことを話すことができます。授業形式ではなく自由に好きなことを英語で話すことは、英語運用能力を高める一助になることは言うまでもないでしょう。

また、English Caféには15台のPCが設置されており、これらのPCにはTOEIC対策のNetAcademy2がインストールされています。これは自学自習用のソフトであり、自分の好きなときに好きなだけ学習することができます。

このように、英語教育開発センターでは、学生の英語運用能力を高めるために、さまざまな学習の場を提供しています。

英語教育開発センター　准教授　山本　修

学部研究科 教育・FD 紹介

Campus Inquiry

ウチの学部・研究科ではこんな教育を行っています！

商学部・経営学研究科

オープンキャンパスを「授業」する ―多目的型授業の効用―

今日、オープンキャンパスは、高校生に大学をアピールする場として欠かせない存在になっています。そして、商学部では、このオープンキャンパスの企画を授業の一環として行っています。

授業の位置づけ

オープンキャンパスの授業が始まったのは3年前の平成23年。商学部のプロジェクト・ゼミナールのひとつとして提供されました。

プロジェクト・ゼミナールは、平成19年に文部科学省に採択された現代GP「インタラクティブ型キャリア教育の確立」によって創設されたカリキュラムで、ビジネスの現場が抱える課題を教室に持ち込み、学生が疑似的にそれと向き合うことで、現場の状況を知るとともに、商学部で学んだ専門知識の応用力を身に付けることを目的としています（商学部の現代GPに関しては「大学教育だより」№7に掲載されていますので、そちらを参照ください）。

したがって、この授業は、商学部が企業の立場に立ち、「商学部はどのようなオープンキャンパスを行うべきか」という課題を学生に投げかけ、学生がその課題に応えるというスタイルで行われます。すなわち、授業の最終プレゼンがオープンキャンパス当日なのです。

授業の概要

プロジェクト・ゼミナールに参加できるのは2回生から4回生。今年は、4回生4名3回生9名、2回生15名の計28名が参加しました。このように学年横断的なゼミナール活動であることが、このプロジェクト・ゼミナールの特徴のひとつになっています。

授業は、①企画やスケジュール管理に必要な思考力を高めるワークショップ、②オープンキャンパスのコンセプトと全体計画の立案、③各パートに分かれての具体的活動への落とし込みの大きく3つのパートから構成されており、当日の運営も彼らが行います。したがって、商学部のオープンキャンパスは、その企画から運営まですべて学生が行う、文字通りの学生企画イベントだと言えます。

学生は、これを半期の授業として行います。オープンキャンパス当日やリハーサルは、授業時間に含まれませんが、それに必要なすべてを週1回の授業の中で行います。

ワークショップ（授業風景）

プレゼンテーション（オープンキャンパス当日）

高校生との談話風景（オープンキャンパス当日）

学生デザインのポスター

授業の目的

そして、このプロジェクト・ゼミナールの最大の特徴が多目的性です。高校生に近い感覚を有する彼らの企画は、オープンキャンパスに参加した高校生から高く評価されています。しかし、ここで言う多目的性とは、プロジェクト・ゼミナールの授業としての側面とイベントとしての側面ということではなく、学生の「学び」の多目的性です。

第1に、学生は、この授業を通してビジネスの企画運営に必要なノウハウを学ぶことができます。

第2に、経営戦略、マーケティング、組織運営、人事管理など商学部で学ぶ知識を実践の中で活用し深めることができます。

第3に、オープンキャンパス当日のプレゼンテーションや模擬演習を通して、コミュニケーション力を高めることができます。

第4に、大きな活動の一部を担うことでリーダーシップや他者との協力の仕方、コンフリクトの解消方法など、組織の一員として活動するためのノウハウを学ぶことができます。

そして、第5に、自ら所属する商学部について考え、その良さを発見する過程で商学部で学ぶ意義や何を得るべきかをあらためて見つめ直すことができます。

多目的型授業の効用

以上で述べたように、オープンキャンパスをテーマとするプロジェクト・ゼミナールは、多くの目的を有する多目的型授業だと言えます。

もちろん、一人の学生がそのすべてを修得することを目指しているわけではありません（やろうとすればそれも可能ですが）。学生は、自分の問題意識のもと、上で述べた目的のひとつでも達成できれば十分だと思っています。

学生の授業に対するニーズは多種多様です。しかし、様々な制約により、それらのニーズに個々対応した授業を提供することはなかなかできません。その点、多目的型授業は異なるニーズにひとつの授業で対応することができ、非常に効率的だと言えます。

また、目的手段関係が明確で、受講すれば確実に何かが得られるハウツウ型の授業が増えている昨今、何を学び取るかも自身の判断に委ねられる多目的型授業は、「学びの力」を高めるという意味で、学生にとっても非常に有意義だと言えましょう。

大学教育研究センター兼任研究員 商学部・経営学研究科准教授 小林 哲

学部研究科 教育・FD 紹介

文部科学省 地(知)の拠点「地(知)の拠点整備事業」

全学共通科目にて新規開講「地域実践演習(GATSUN)」

平成27年度より、大阪の「再生・賦活」「安全・安心」の創生を目指した地域志向型の教育プログラムが始まります。今年はその先駆けとして、アクティブラーニングと地域での学習と活動がメインとなる「地域実践演習」が始まります。

平成26年度は3つの演習が開講されます!

我孫子町商店街の活性化を通じたまちづくり

JR我孫子町商店街の活性化のための課題を発見したり、その解決策を考えてもらいます。商店街の視察や地域でのヒアリング調査などを通じて、より実践的な学びを展開します。

住吉・住之江・西成におけるいのちを守る都市づくり実践

頻発する自然災害に対する、強靭な地域づくりが我が国の課題となっています。本講座では、大阪での防災課題を把握し、防災対策の基礎を実践を通じて学んでいきます。

紀伊半島新宮市における地域再興の学修

世界遺産を有する和歌山県新宮市をフィールドに、高齢化の進む中山間地域における農耕による地域再興や、ニューツーリズムによる地域のエンパワーメントについて学びます。

国際センター主催(3月実施)

オックスフォード大学ハートフォードカレッジ短期語学研修プログラム

Hertford College, University of Oxford(英国)で過ごす春休み

イギリスを代表する大学都市、オックスフォードで英語力をアップしませんか?

オックスフォード大学ハートフォードカレッジは、最古のカレッジの一つで、とても趣のある格式高い雰囲気の中で英語が学べます。熟練した講師陣と、オックスフォード大学の学生との触れ合いを通じてかけがえのない時間を過ごしましょう!

費　用	60～70万円程度
参加者	30名程度
引率者	1名予定

英語教育開発センター主催(3月実施)
国際センター主催(9月実施)

ビクトリア大学 短期語学研修プログラム

English Language Centre, University of Victoria(カナダ)で過ごす夏休みと春休み

Center Now & Human

大学教育研究センターは「こんなこと」に「こんなメンバー」で取り組んでいます!

FD活動

(1) FD研究会(年1回)

FD研究会は、大阪市立大学における教育の向上を図るための組織的な研修や教育に関する研究活動の成果に関し、全学的交流を図る場として設定されています。例年、100名前後が参加してきた大きな研究会です。2013(平成25)年度の全体のテーマは「学生が『何をどの程度学べているか』を知るには?―IR実践から見えてくるもの」でした。

(2) 教育改革シンポジウム(年1回)

教育改革シンポジウムは、全学的に共有が可能なホットトピックについて、大学内外の情勢を鑑みながら考えを深めることを目的に開かれています。第20回目を迎えた2013(平成25)年度は、「学士課程における全学共通教育の課題と方向性」をテーマに開催しました。

(3) FDワークショップ・大学教育研究セミナー(年数回)

FDワークショップと大学教育研究セミナーは、ワークショップ形式またはラウンドテーブル形式等をとり、主に学内の参加者間で授業デザイン事例など教育実践事例や大学教育にかかわるホットトピックの紹介とそれらについての意見交換を行う場として設定されています。

研究成果の発信と広報

(1) 大阪市立大学大学教育研究センター紀要『大学教育』

主として本学の教育に資する研究成果の発表の場として、学内はもとより全国から投稿を募り、年に1～2回発行する、査読付きの学術雑誌です。センターのFD活動・研究活動の報告の場でもあります。

(2) 大学教育だより & Un roseau(アン ロゾ)

教員および学生を対象として、大阪市立大学におけるさまざまな教育への取り組みをまとめた広報誌『大学教育だより』を年1～2回発行してきました。また、大阪市立大学での学びの道しるべとして全学共通教育総合教育科目ガイドブック『アン ロゾ』を発行し、学生のみなさんに配付してきました。2006年度からこれら2冊を合冊として、より充実した内容として発行し、一層幅広く配付しています。

センターの研究活動

(1) 本学の学士課程のあり方と示し方に関する調査研究

本学には8つの学部があり、それぞれの特性を生かした教育が行われています。一方で、総合大学である大阪市立大学の特徴を生かした教育を展開することも重要です。専門性と総合性を備えたカリキュラムは複雑な形になりがちであるため、その全体像と各授業の位置づけを、受講生、市大への入学をめざす受験生、市大に関心を持つ学外の人人にわかりやすく示す必要があります。

そのため大学教育研究センターでは、各学部の教育について聞き取り調査や、全学共通教育を担当する教員へのアンケート調査等を実施してきました。平成25年度には、各学部・学科の学生が4年間(6年間)で何をどのように学ぶかを示した「学士学位プログラムの学修マップ」が公開されました。

(2) 教育実践・カリキュラム開発・評価研究

成熟社会となりつつある日本において、大学には、主体的に学び続ける学生、グローバル社会に力強く対応できる学生の育成が強く求められています。このような国内外の情勢の中、大学教育研究センターでは、思考力・キャリアデザイン力育成プログラム開発研究、アクティブラーニング(学生参画型)教授法開発研究、学修成果評価方法開発研究を行ってきました。これらの成果が、2013(平成25)年度10月に第一期生30名を迎えたグローバル・コミュニケーションコースのデザインと教育成果評価サイクルの確立に活かされています。

(3) 本学の教育改善・FDに関する調査研究

本学の学生の皆さんが真に学ぶ教育の実現のためには、本学の全構成員(教員・職員・学生)が、本学の理念や教育目標を共有してその実現のために協力し合うことが重要です。センターでは、FD(ファカルティ・ディベロップメント)を、本学の教育の質の維持と一層の向上のための、構成員全体の自律的で組織的な取組として捉え、近年急速に活発化している各学部等での教育改善・FDの取組への協力支援を行っています。また、本学の教員が、本学の教育やFDに日常的にどのように取り組み、考えているかを知り、それらを教員相互や大学全体の教育改善に活かすために、教員の意識調査とその研究なども行っています。

(4) 大学院教育のあり方に関する研究・協力

センターでは、大学院における教育のあり方についても研究を進めています。将来、大学教員をめざす大学院生のための大学教育実習制度の構築と実施に協力したり、大学院生やポストドクターに対するキャリア開発支援のプロジェクトを推進したり、大学院の研究科を超えた共通科目の可能性などについて検討したりしています。

(5) その他、学内の教育研究ニーズに基づく研究

上記以外に、以下①②のような、学内ニーズに基づく各種調査・研究活動も行っています。①入学者追跡調査:市大に入学した学生の皆さんが在学期間に学び、卒業していくプロセスをたどることで市大の教育の課題を浮かび上がらせ、選抜方法や教育の改善に結びつけるために実施しています。②授業と学習効果・意識の研究:理学部物理学科と共同で、全学共通教育の物理学の実験科目の一部について、授業での学びと学習効果、学生の学習意識との結びつきについて検討しています。

大学教育研究センター紹介

RDHE Osaka City University Center for Research & Development of Higher Education
大阪市立大学 大学教育研究センター

大学教育研究センターの研究

大阪市立大学 大学教育研究センターは、大学を取り巻く新しい環境の中で、社会の進路を見据えた大学教育のあり方を実現することを目指して研究と開発をすすめるために設立されました。

右記の3本の柱を基本に据えつつ、相互に強く関連をもつ各種プロジェクトに取り組んでいます。

高等教育の制度やその役割についての研究

（1）学士課程教育システムのあり方
（2）学生相談・学習相談システムのあり方
（3）社会における大学のあり方
（4）生涯学習社会における大学のあり方

全学的FD活動
各種研究プロジェクト

カリキュラム・教育方法の開発に関する研究

（1）学士課程のカリキュラムおよび教育方法の開発
（2）初年次教育カリキュラムのあり方
（3）授業改善支援システムのあり方

大学教育の評価および教員評価のあり方に関する研究

（1）大学教育評価のあり方
（2）大学教員評価のあり方
（3）FD活動のあり方

大学教育研究センタースタッフの紹介（平成26（2014）年3月現在）

■所長

桐山 孝信
副学長

■専任研究員

大久保 敦
副所長 大学教育研究センター教授
研究分野：高校大学の接続／科学教育／古植物学

西垣 順子
大学教育研究センター准教授
研究分野：大学教育の評価に関する研究／教育心理学

飯吉 弘子
大学教育研究センター准教授
研究分野：社会における大学のあり方に関する研究／教育学／大学教育史

渡邊 席子
大学教育研究センター准教授
研究分野：教育支援システムの開発／キャリア教育／社会心理学

平 知宏
大学教育研究センター特任講師
COC教務コーディネーター
研究分野：データに基づく教育改善／認知科学

■兼任研究員

小林 哲
経営学研究科准教授

北原 稔
経済学研究科准教授

中島 義裕
経済学研究科教授

高田 昌宏
法学研究科教授

久堀 裕朗
文学研究科准教授

井狩 幸男
文学研究科教授

海老根 剛
文学研究科准教授

福島 祥行
文学研究科教授

高橋 太
理学研究科教授

飯尾 英夫
理学研究科教授

荻尾 彰一
理学研究科准教授

谷口 与史也
工学研究科教授

鳥生 隆
工学研究科教授

広常 真治
医学研究科教授

廣田 麻子
看護学研究科講師

永村 一雄
生活科学研究科准教授

三船 直子
生活科学研究科教授

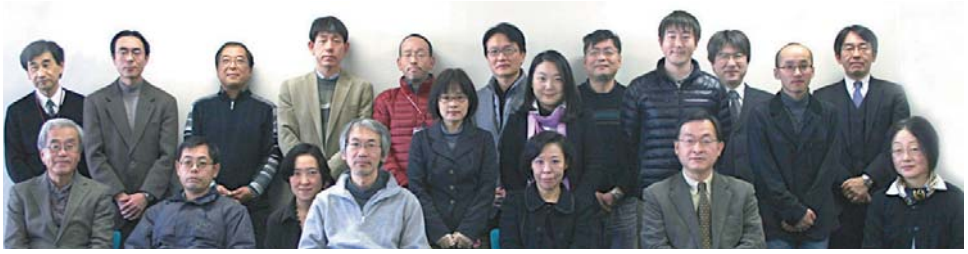
小沢 貴史
創造都市研究科准教授

岡崎 和伸
都市健康・スポーツ研究センター准教授

■事務局

垣谷 篤
学生支援課長

福井 恵美子
学生支援課員



編集後記

『大学教育だより』は大阪市大の教育的取組や学習活動に関する広報誌です。『アン ロゾ』は全学共通教育総合教育科目ガイドブックです。これ等に加え別冊として『新入生のための授業選び案内』も発行しています。とくに新入生の皆さんは、是非合わせて目を通して、これからの学修の道しるべにしてもらえればと思います。

今回の『大学教育だより』「VOICE」欄では、経済学部および医学部看護学科の学生の皆さんが、相互の授業への参加や学舎見学をした上で、それぞれの学部での学びや学問の違いについて2時間近くにもわたって話し合ってくれました。普段はキャンパスも異なり接点が少ない両学部の学生が、互いの様子を知ることで自らの学びを振り返る機会となりました。各部局の最近の教育的取組欄については、都市健康・スポーツ研究センター、英語教育開発センター、商学部の3つの部局が紹介をして下さいました。総合大学で学ぶことの意義を実感するためにも、自分の学部に限らず、他学部等の記事も是非読んでみて下さい。

『アンロゾ』は、教育・学生担当副学長の桐山先生、理学研究科の飯尾先生が、学生の皆さんに、本学での学修機会や大学での学びのあり方について語りかけて下さっています。是非こちらもゆっくり読んでみて下さい （飯吉）

編集委員：飯吉 弘子・北原 稔・廣田 麻子

大学教育研究センター紹介